

県全域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成24年度)

達成状況判断基準:100%以上→「達成」、80%以上100%未満→「概ね達成」、80%未満→「未達成」

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率				達成状況	
			項目名	H24目標	H24実績	単位		達成率
共県 -1	「美味しまね 認証制度」 推進プロ ジェクト	<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度創設から4年が経過し、小売事業者等からは認証制度の評価が徐々に高まりつつあり、東京都内の事業者からは認証マークの添付を要請される事例がでている。 ・認証件数は、毎年増加しているが、県内小売店で販売される認証商品はまだ不十分で消費者の認知度も低い。生産者、消費者ともに更なる制度理解を図る取組を進める必要がある。 ・認証制度の推進を図るうえで、指導者の役割は重要であり関係機関と連携して計画的に指導者を養成する必要がある。 <p>【取組の評価・検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24年度の生産者への制度推進や、消費者への制度PRについては、計画に基づきほぼ計画どおり実施できた。 ・24年度の認証については、美味しまね認証審査委員会を4回(6/5,8/29,12/21,3/22)開催し、新規認証8件と更新申請26件の審査を行い、申請者すべてを認証した。 [新規認証の内訳] 野菜:2件、果樹:4件、茶:1件 肉用鶏:1件 [更新認証の内訳] 米:9件、鶏卵:13件、青ネギ:1件、赤梨:1件、菌床しいたけ:1件、イワガキ:1件 ・制度の適正な運営とするため、美味しまね認証制度検証委員会を開催(2/19)し、取り組み状況と制度内容などについて検証を行い、「認証期間」及び「監査」について条件を付した上での見直し承認され、25年度から運用する予定。 ・24年度の新規認証の目標数(8件)を達成することができた。また、次年度に新規認証を希望する者も増えつつある。 	美味しまね認証 件数	56	56	件	100%	達成
農県 -1	島根米の品 質向上プロ ジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から本格栽培を開始した「つや姫」は、夏期の高温に遭遇したにも関わらず、その1等米比率は86.5%、コシヒカリを大きく上回る品質となったため、生産者からの評価も高く、次年度作付面積は平成24年度栽培面積から倍増する計画。 ・一方、地域によって品質に差が生じたことから、その原因分析等の検証結果を踏まえ、栽培普及マニュアルを策定(H24年暫定版)。次年度は、実証ほや農技Cの研究課題と連携しながら、マニュアルのブラッシュアップを図るなど、高品質・安定生産技術を向上させる。 ・「つや姫」の販促については、関係団体と一緒に「島根のつや姫」ブランド化プロジェクトを立ち上げ、統一ロゴデザインを活用した販売促進活動を展開した結果、米卸や消費者の評価も上々。次年度は、「全国つや姫フォーラム」を通じた認知度向上を目指す。 	米の新品種作付 面積	300	280	ha	93%	概ね達成
農県 -2	園芸産地の 再生プロ ジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地域で、関係機関との検討会を実施し、現状把握と今後の方向を検討 ・サポーター養成については、出雲でシルバー人材センターとの連携が行われたが、マッチングの継続性確保が課題 ・サポート体制の先進地事例を収集・取りまとめ。今後の啓発活動に活用 	園芸産地再生に 向けたモデル地 域	4	5	地域	125%	達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・ぶどうの隔日変夜温管理、トロボ箱栽培など省エネ、省力化技術の導入を支援 	しくみ活用組織 数	4	3	組織	75%	概ね達成
農県 -3	和牛繁殖産 地の再生プロ ジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖和牛低コスト生産推進検討委員会を設置し、低コスト生産に関する技術や取組方法のマニュアル化、推進体制の整備等について検討を開始。 	繁殖雌牛頭数	9,500	8,944	頭	94%	概ね達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・放牧による低コスト化や飼養管理の省力化等について、モデル地区での実証により普及推進を図るとともに、低コスト化・省力化の取組に対する助成支援を実施。 	うち繁殖雌牛放 牧頭数	3,200	2,976	頭	93%	概ね達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・和牛繁殖経営の新たな担い手を確保するため、牛を導入している集落営農組織やコントラクター組織等の実態調査を実施、その調査結果を踏まえ、新規事業を構築し、予算化。 	繁殖牛平均年齢	8.01	8.04	才	99.6%	概ね達成
			コントラクター組 織数	6	7	組織	117%	達成

県全域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成24年度)

達成状況判断基準:100%以上→「達成」、80%以上100%未満→「概ね達成」、80%未満→「未達成」

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率					達成状況
			項目名	H24目標	H24実績	単位	達成率	
農県-4	有機農業の拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 農林大学校有機農業専攻、重点研究プロジェクト、就農相談については、計画した活動がほぼ実行できている。それぞれの状況・情報の共有を図っていく必要。 みんなでつくる有機の郷事業については、実施件数は昨年度並みとなったものの、予算額からすれば活用が低調に終わった。新規就農予定者による実践支援事業の活用があったことは新たな動き。 販路確保については、計画通りに事業を実施。首都圏での商談会は、にほんばし島根県での情報発信に変更し、3月に実施。フェアについては若者グループの出演など、新たな息吹が見られるが、その他の企画については、参加する事業者が固定する傾向にある。 ネットワークづくりは、県が事務局となり、ゆるやかな形でスタート。会員の募集を実施中。まずは、メーリングリストという形で情報共有のしくみを作り、本格的な活動を始める。 	有機農業による新規就農者数(H24からの累計)	2	3	人	150%	達成
			有機農業の取組面積	280	346	ha	124%	達成
農県-5	新規就農者の育成・確保プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 就農希望者の確保から研修、就農後のアフターまで、積極的な支援等事業を展開中。 目標170人/年の達成に向け、更に関係機関との連携を図り、新規就農者の確保育成に取り組んだ。 具体的な実績は下記のとおり ■自営就農者(目標60名に対し27名、昨年度35名) (参考:現在研修中で次年度以降に就農予定) ・認定就農者の目標数37名に対し、30名(前年11名) ・半農半X実践者の目標10名に対し、8名(前年3名) ■雇用就農者の目標110名に対し、98名(昨年度85名) (参考) ・「農の雇用事業」により、64名が採択(前年26名) ・人材派遣会社による集落営農法人への派遣目標10名に対し、11名 	新規就農者数	170	125	人	74%	未達成
			独自の就農研修、研修農場を実施する市町村数	9	9	市町村	100%	達成
農県-6	集落営農の強化による地域の維持・活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 「人・農地プラン」を基礎とした新たな集落ビジネスの展開など集落の将来を見据えた「集落ビジョン」作成のため、プランの説明会や集落ビジョンの研修会等を開催したことにより、新たに6地区の集落ビジョンづくりが開始されるとともに、各地域協議会において、人・農地プラン重点集落での集落ビジョンづくりの取り組みが進みつつある。 また、来年度から集落営農法人へのアンケート結果に基づいたサポート経営体への新たな支援策を実施することとした。 直払制度においては、新規協定の設立、高齢農家等をサポートする体制への移行や非農家組織との連携等についての動きがあり、協定面積の拡大や推進項目の着実な実施が図られた。 	地域貢献型集落営農組織数(累計)	213	209	組織	98%	概ね達成
			LLP等の強固な連携組織数(累計)	2	3	組織	150%	達成
			「中山間地域等直接支払」協定面積(累計)	13,100	13,229	ha	101%	達成
農県-7	国営開発農地の有効活用プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 地区別に課題に対応した取り組みが行われており、概ね順調に進んでいる。 	【開発農地】農地活用面積	717	715	ha	99.7%	概ね達成
			【干拓地】農地売渡・貸付面積	308	330	ha	107%	達成
林県-1	主伐促進による原木増産プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 【原木供給】 ・木材生産団地を活用した地域別木材生産流通システムへの取り組みや国の間伐施策や県の原木生産促進事業の活用等により木材生産団地からの原木生産量は目標を達成。 ・平成24年度から始まった森林経営計画による新たな木材生産団地化に向けて、従来のスギ・ヒノキ人工林を主体とした団地を核として、天然林を含む面的まとまりによる更なる集約化への取り組みが、各森林組合を中心として進められている。 ・原木生産の条件整備となる木材生産団地のカバー率は目標に対し7割程度となったが、これは、国が造林補助事業の採択要件を緩和したことにより既存の木材生産団地でも補助が受けられるようになったことなどから、森林経営計画への移行が若干先送りとなったためと考えられる。 【循環型林業】 ・循環型林業の確立に向けて国の補助事業等に併せて県単事業により、伐って・使って・植えて・育てる循環型林業の確立に向けた各種支援を実施。 ・森林経営計画による新たな木材生産団地化による集約化により、木材生産量が大幅に伸び、併せて新植面積も増加した。 ・今後は、循環型林業の実現に向け、永続的な森林経営・管理の仕組みづくりを検討していく。 	木材生産団地(森林経営計画)のカバー率[累計]	30	21	%	70%	未達成
			木材生産団地からの原木生産量	109,870	118,881	m3	108%	達成
			県産原木自給率	29	30	%	103%	達成

県全域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成24年度)

達成状況判断基準:100%以上→「達成」、80%以上100%未満→「概ね達成」、80%未満→「未達成」

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率				達成状況	
			項目名	H24目標	H24実績	単位		達成率
林県-2	木材産業の強化プロジェクト	<p>【原木流通の合理化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合、木材生産事業体、原木市場、製材工場等は、ともに増産を前提に前向きに取り組んでいる。 ・具体的な取り組みも積極的に進められている。 <p>例1:永続的な森林経営の仕組みづくりに向けた、森林組合と木材生産事業体の伐採・植林の連携</p> <p>例2:原木生産コスト低減のための、中間土場仕分け、原木市場を経由しない原木直送</p> <p>【木質バイオマスの需要拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス発電及び温浴施設の木質チップボイラーへの燃料チップ供給拡大に向けた、積極的な施設・機械の導入 <p>【木材加工体制の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争力の高い木材製品加工体制の実現に向けて、加工施設を新設・増設する積極的な動きが出てきた。 	県産原木自給率	29	30	%	103%	達成
		<p>【木材製品の県外販路開拓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材製品県外出荷しまね事業体連合には、主要な製材所等が参画して販路開拓に前向きに取り組み、成果を上げた。 <p>【木材製品の県内出荷】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅、公共建築物の木造化が牽引し、民間施設の木造化に理解が広まりつつある中で、県内唯一の木材製品市場が、しまねの木認証製品を幅広く取り扱う体制を整備し、多様な木材の適時納入が可能となった。 	新たに原木安定需給と加工体制強化を実現した拠点工場数[累計]	5	5	工場	100%	達成
水県-1	基幹漁業の構造改革プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田地区の沖合底びき網漁業を中心とした構造改革は、リジップ工事を完了し、実証事業開始に向けて、冷海水装置、魚倉保冷装置の活用による高鮮度化の取り組みが始まった。買い受け人からは一定の評価を受けているが、今後は機器の調整、出荷形態の見直しなど関係者間で調整し、漁獲物の単価向上を進める。 	沖底2そうびき(浜田根拠)1ヶ統あたり生産金額	300	258	百万円	86%	概ね達成
		<ul style="list-style-type: none"> ・大田地区を中心とした小底の構造改革は、市場統合、出荷形態の見直し作業等が進められているところ。努力量の削減については、7隻減船した。 	小底1隻あたり生産金額	38	39	百万円	103%	達成
水県-2	宍道湖・中海の水産資源維持・再生プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度に策定された「宍道湖・中海水産資源維持再生構想」に基づき、汽水域の特性や環境・生態系との関連を重視した「環境保全型の漁業」の推進を図るため様々な施策を展開している。 ・宍道湖においては、シジミ資源の激減も含めて宍道湖に現れている様々な現象の原因を解明し、その対策を講じる必要がある。 ・中海においては、漁業の再生をすすめるために、漁業所得の増大が可能な漁業種を作り上げる必要がある。 	宍道湖におけるシジミ(ヤマトシジミ)生産金額	15	11	億円	73%	未達成